

コバヤシ ユリコ

小林祐梨子

2008年の北京オリンピックで、国立大学生として初の五輪出場を果たしたマッチングプログラム (MP) コース4年生の小林祐梨子さんに、陸上への思いや勉強と両立させてきた学生時代についてうかがいました。

高橋選手にあこがれて

陸上を始めたのは、小学生の時、シドニーオリンピックで高橋尚子選手を見たのがきっかけです。中学で陸上部に入りました。顧問の先生は中距離をさせようとしたが、私は幅跳びを希望。すると先生から「3回のチャンスで4m跳べたらやってもいい」と条件を出されたんです。結局跳べず、中距離になりました。

「有言実行」

学ぶ

先生はすごく厳しく、忍耐を覚え、心が磨かれました。とくに1年生の時、「目標を一つ立てろ」と言われ、無理だと思いつながら「全国大会出場」にしたことが転機に。あきらめぐせが強く、目標を持って何かをやったことはなかったのですが、練習でしんどい時も目標が支えになりました。そして、



発想違う

仲間できた

岡大は兄が通っていて、よく遊びに来ており、のんびりした雰囲気が入っていました。好きな科目を選んで履修するコースがある大学のうち、最も近かったこともあり、MPコースに進学。今は、数学で卒業研究に取り組んでいます。陸上に詳しくなく、違う発想

陸上も勉強も量より質

自己記録を30秒以上も更新、全国大会で優勝することができたので。ここで『有言実行』の姿勢を学び、今の自分があるのだと思います。

高校でも陸上と勉強を両立。面白いことに、テストの成績が悪いと陸上でも結果が出ません。2時間通学だったこともあり、勉強も練習も量より質を重視し、メリハリを大事にするようになりました。高校で日本新記録

海外レースの

雰囲気が好き

や考え方をしてくれる仲間ができたのはスポーツ推薦にはない利点でした。

海外に行く機会にも恵まれました。初の海外レースでは、世界中で「よいい、ドン」と言うと思っていて、合図がわからず出遅れました。北京オリンピックでは、スタジアムにいる10万人が生み出す地響きに圧倒されました。人が多すぎて会場と一体になれない感覚がありました。が、良い意味で頭が真っ白になり、レースに打ち込みました。海外のレースは、ライバル同士でもスタート前に声を掛け合い、ずれたゼッケンを直してくれたります。日本のレースにはないこの雰囲気が好きで、とても楽しく走れます。

強い選手を目指す

中学時代から、少しずつ距離を伸ばしてきましたが、1万mやマラソンをやるつもりはありません。日本人が苦手とされる5kmで頑張り、来年の世界選手権と、ロンドンオリンピック

目標立て努力する

今まで、応援を力に変え、目標を定めて頑張ってきました。みなさんも、自分ができないと思うことでも、試しに目標を立ててやってみてください。努力すれば、結果は後からついてきますよ。

